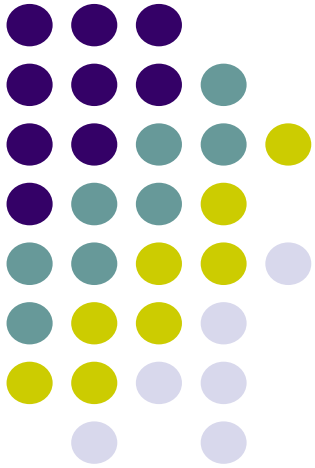
決　算　説　明　資　料

（2014年3月期第2四半期決算）



2013年11月1日

東証2部

オーナンバ株式会社

目次

1. 決算の概要（BS、PL、C/F）
2. セグメント別業績
3. 2014年3月期上半期のトピックス
4. 2014年3月期下半期の経営戦略
5. 2014年3月期業績予想

１．決算の概要

－ＰＬ－　『売上高も営業利益も前年を大幅に上回り最終利益は黒字化を達成』

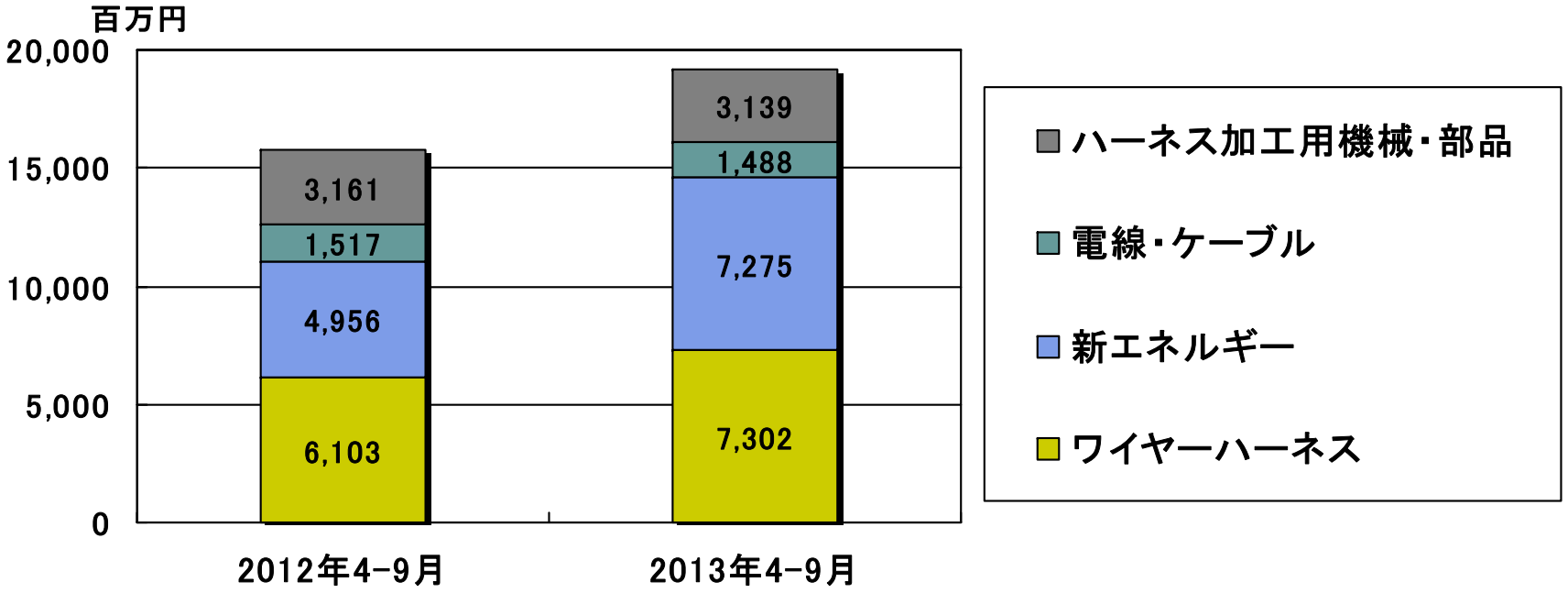
（単位：百万円）

科目	2012年4-9月		2013年4-9月		前年同期比	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	増減率
売上高	15,737	100.0%	19,204	100.0%	3,466	22.0%
売上原価	12,895	81.9%	15,565	67.1%	2,669	20.7%
販売費・一般管理費	2,696	17.1%	2,920	15.2%	223	8.3%
営業利益	145	0.9%	718	3.7%	573	394.8%
営業外収支	-252	-1.6%	-26	-0.1%	225	―
経常利益	-106	-0.7%	692	3.6%	799	―
特別損益	-52	-0.3%	-8	-0.0%	44	―
四半期純利益	-303	-2.0%	348	1.8%	652	―

前年同期との比較（増減内容）

- 売上高は、太陽光発電配線ユニットや延長・分岐ケーブル、モニタリングシステムなどの関連製品の売上が大幅に増加したこと、車載用、照明機器用、事務機器用ワイヤーハーネスの売上が増加し、前年度を上回った。
- 販売費・一般管理費は、販直・運賃の増加と製品改修の引当を計上したことで前年度を上回った。
- 営業外収支は、前年度に発生したデリバティブ取引解約損（１６４百万円）がなくなり、為替差損も前年度より減少したことで好転した。
- 特別損益は、前年度発生した投資有価証券評価損（５５百万円）がなくなり前年度より好転した。

【製品別売上高】



・ワイヤーハーネスは車載用ハーネス等が増加。円安の影響も有り前年度を上回った。
・新エネルギーは再生可能エネルギーの固定価格買取制度の開始により、延長・分岐ケーブル、モニタリングシステムの売上が大幅に増加した。
・電線・ケーブルの売上は国内需要の回復の遅れで売上は前年度並みとなった。
・ハーネス加工用機械・部品は不採算品種の販売中止の影響で前年度を下回った。

【主要製品別売上高】

（単位：百万円）

	2012年4-9月	2013年4-9月	増減
太陽光発電配線ユニット・延長ケーブル	4,902	6,807	1,905
薄型テレビ内部配線用ハーネス	599	425	-174
白物家電用ハーネス	787	756	-31
事務機器用ハーネス	777	864	87
車載用ハーネス	480	798	318

・薄型テレビ内部配線用ハーネスは、2009年3月期をピークに売上が年々減少している。
・事務機器用ハーネスは主に中国、インドネシア市場での売上増加による。
・車載用ハーネスの売上は主に北米市場での売上増加による。

【設備投資の状況】

（単位：百万円）

	2012年4-9月	2013年4-9月	増減
有形固定資産取得額	268	347	79
減価償却費	294	354	60

主な投資内容

ユニオンマシナリのタイ子会社の工場移転　151百万円。

【人員増減】

	2012年9月末	2013年3月末	2013年9月末
従業員	4,636人	4,441人	5,105人
臨時従業員	288人	316人	308人
合計	4,924人	4,757人	5,413人

増減の理由

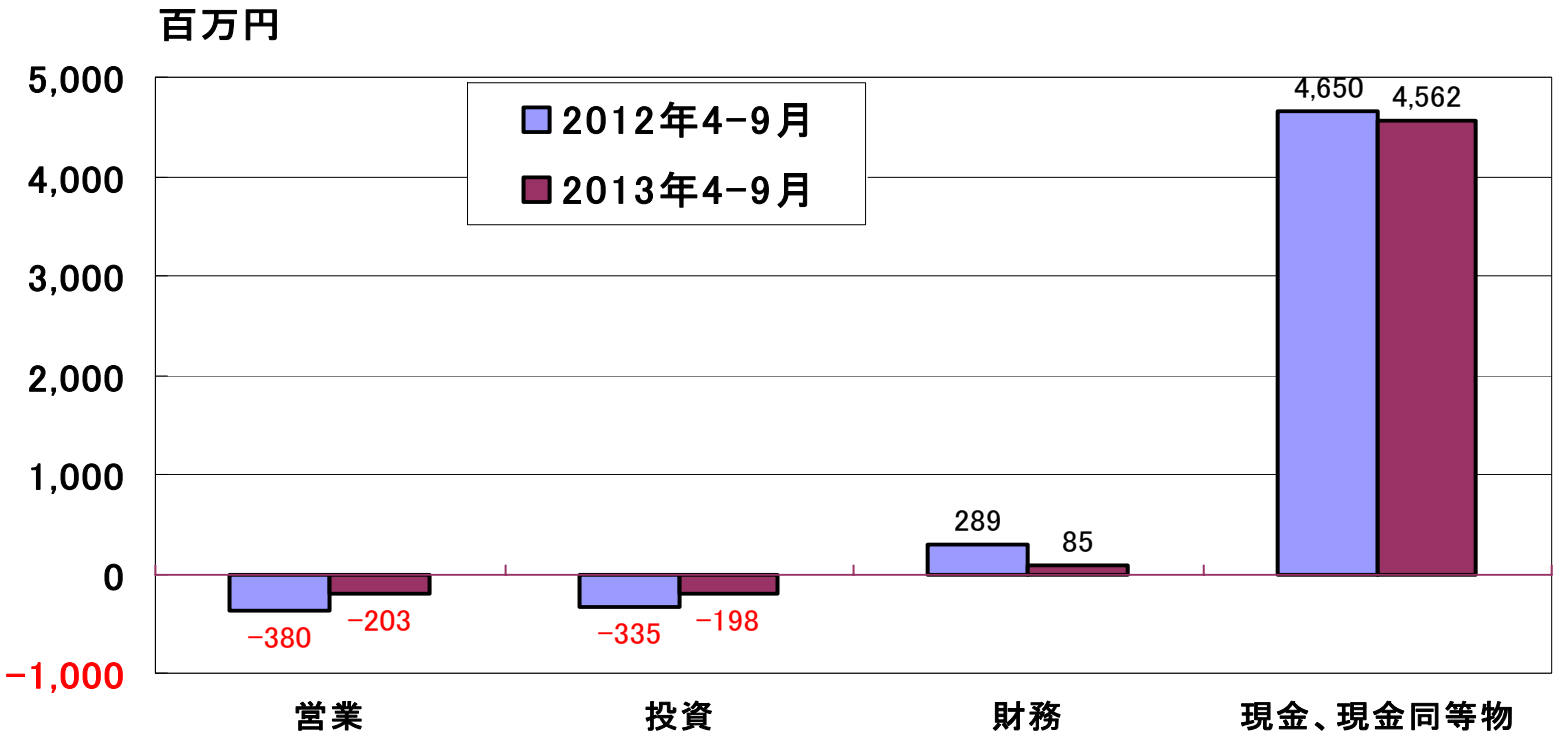
カンボジア子会社の人員増加及びオーナンバのタイ子会社清算による人員減少。

－ＢＳ－　『受注・売上の増加により資産・負債が増加』

科　目	2013年3月末		2013年9月末	
	金額	構成比	金額	構成比
流動資産	21,545	71.1%	23,340	72.2%
（現金及び預金）	4,685	15.5%	4,583	14.2%
（売掛債権）	10,558	34.9%	12,095	37.4%
（棚卸資産）	5,616	18.8%	5,970	18.5%
固定資産	8,746	28.9%	8,988	27.8%
（有形固定資産）	5,683	18.8%	5,878	18.2%
資産合計	30,291	100.0%	32.329	100.0%
流動負債	12,552	41.4%	12,889	39.9%
（買掛債務）	6,516	21.5%	6,627	20.5%
（短期借入金）	4,507	14.9%	4,508	13.9%
固定負債	5,705	18.8%	6,082	18.8%
（長期借入金）	4,727	15.6%	5,079	15.7%
負債合計	18,257	60.3%	18,972	58.7%
純資産計	12,033	39.7%	13,357	41.3%
負債・純資産合計	30,291	100.0%	32,329	100.0%

・受注・売上の増加に伴い売掛債権、買掛債務、棚卸資産が増加し、為替の影響で為替換算調整勘定が増加し、純資産が増加した。

-C/F-　【キャッシュフローの状況】

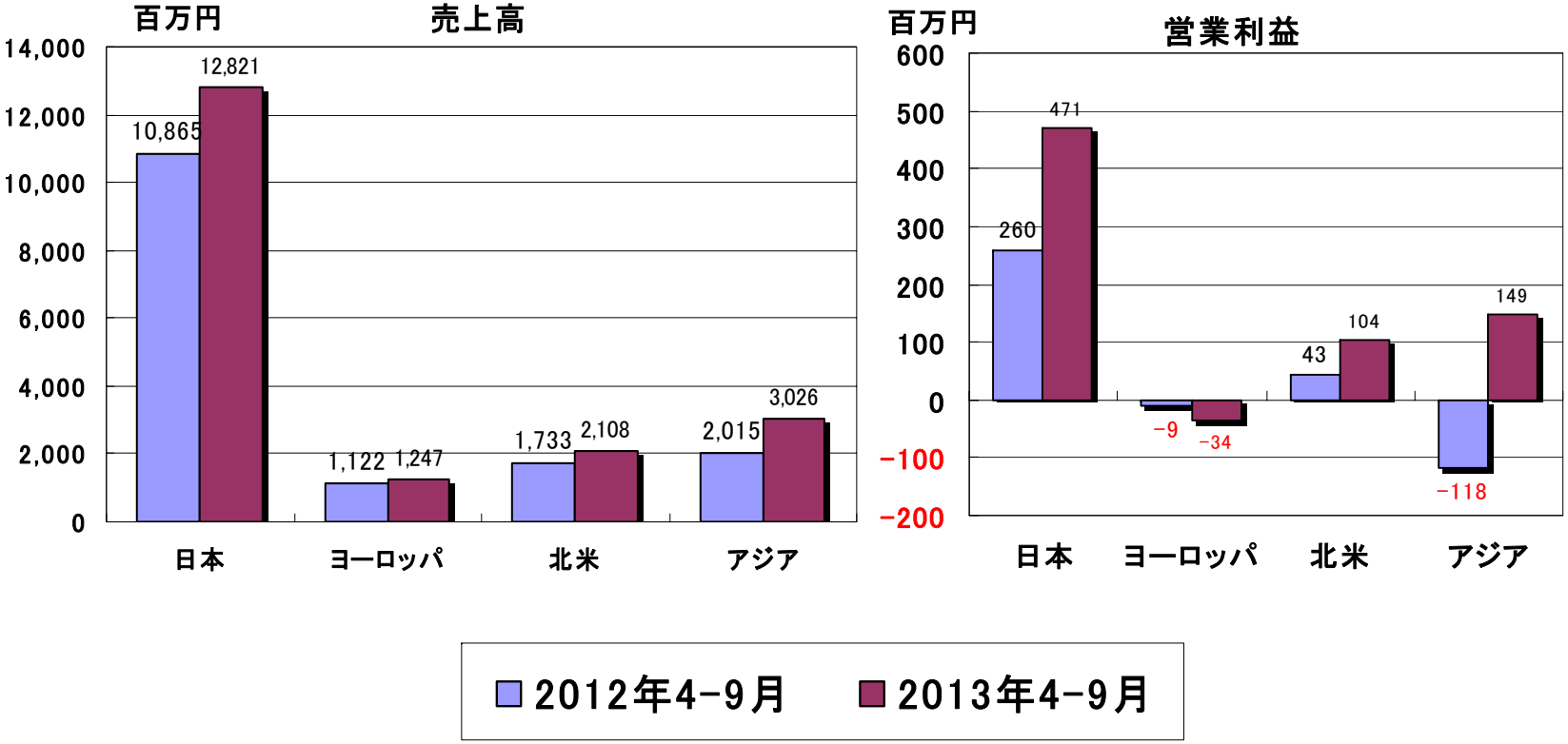


営業C/Fは売上増に伴う運転資金の増加により前年度に続きマイナス。投資C/Fは有形固定資産の取得によりマイナス。財務C/Fは借入金の増加でプラス

２．セグメント別業績

【セグメント別売上高・営業利益】

全てのセグメントにおいて売上が増加し、欧州を除き営業利益も増加した。



３．２０１４年３月期上半期のトピックス

①太陽光関連製品の販売が急増

再生可能エネルギーの固定価格買取制度により日本国内の太陽光発電所の建設ラッシュとなり、当社の太陽光発電配線ユニット、延長・分岐ケーブル、モニタリングシステムの販売額が大幅に増加した。これらの対応のため、日本及びベトナムの子会社で生産能力の増強を行なった。

②新規市場の開拓

北米で車載用WHの新規取引先の開拓、中国でロボット用WHの新規取引先の開拓を実現した。

４．２０１４年３月期下半期の経営戦略

①新製品開発の推進

スマートフォン向け部品、車載用部品の新規販売等。

②競争力強化のための事業構造改革

欧米子会社の生産販売体制の見直しと増強。

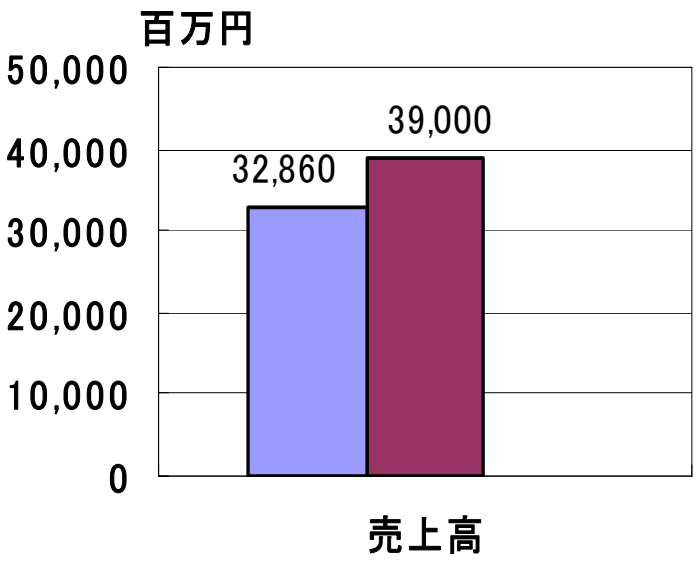
中国・東南アジア子会社のWH生産体制の見直し。

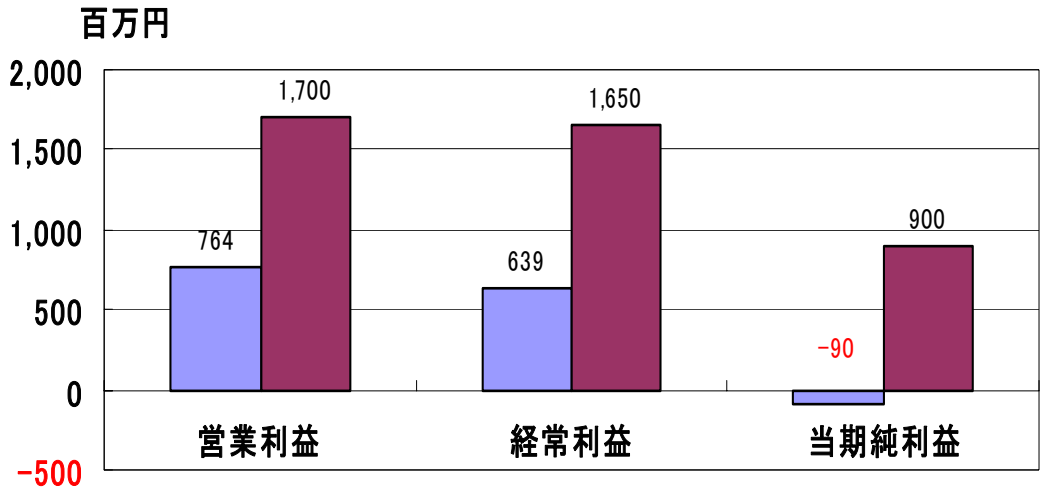
③コストダウンの徹底

滞留品・輸送費の削減、製品ロスコストの低減

５．2014年3月期業績予想

今期の業績予想は10月25日に修正値を公表。
上半期の実績と下半期の需要予測を勘案して算出した。







本資料の将来予想に関する記述は、経済情勢や社会情勢の変化により、実際の業績と異なる場合があることをご承知おき下さい。